



令和2年 6月号 Vol.74 (隔月発行)

感染に注意しましょう！

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、区から要請を受け、令和2年3月1日（日）より施設貸出と自主事業を休止しております。地域の皆様にはご不便をおかけし、申し訳ありません。施設貸出と自主事業の再開は未定ですが、再開時は以下の点にご注意ください。

①室内履きをご持参ください

開館後しばらくはスリッパをおきません。新型コロナウイルス感染予防のため、室内履きをお持ちください。



②3密を避けましょう

新型コロナウイルスの感染にはまだ十分な注意が必要です。
1.密室 2.密集 3.密接
の3密を避けることが重要です。
換気をし、少人数で、距離を保つことを守りましょう。
マスクの着用もお願いします。

③職員の指示に従ってください

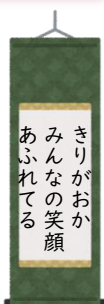
日々変化する状況に対応するため、情報を収集し、対応しております。職員の指示には従うようお願いいたします。



皆様の安心・安全を守るためのルールです。
ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

投票をお願いします！

「おうちでファッションショー」
「ストックフォトコンテスト」
「霧が丘川柳2020」の作品を募集しました。開館後1か月間、館内に掲示しますので、ぜひご覧ください。また、皆様の投票により優秀賞を決めますので、よいと思う作品に投票をお願いいたします。優秀賞の発表は、開館1か月後、館内掲示板にて行います。どの作品が受賞するでしょうか？
お楽しみに！



霧が丘デイサービスより

新型コロナ感染予防として、デイサービスではご来所されました皆様に手洗い・うがい・手指消毒にご協力頂いております。お陰様で、現在感染もなく安全に過ごす事が出来ております。緩みも出始める頃ですが、ボランティアの皆様が戻り、活気あるデイが戻って来る日を心待ちに、徹底した予防を行いながら心身ともに、明るく・健康に過ごしていきたいと思います！！



霧が丘地域ケアプラザホームページURL
<http://www.kirigaoka.foryou.or.jp>



《お問い合わせ・お申込み》
電話：920-0666 酒井・松田

《お問い合わせ》
電話：920-2020 相談担当：佐藤



霧が丘地域ケアプラザ協力医
よしだ健康ケアクリニック院長 吉田保男
Dr.よしだの健康コラム

**「パンデミックと
実行再生産数(R_t)」**

2019年12月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、日本においても年が明けた2020年1月15日に国内で初めて陽性者が報告されるなど、瞬く間に世界的な感染拡大を引き起こしました。世界保健機関 (WHO) は1月31日に緊急事態宣言を発し3月11日にはWHOが世界的な大流行を意味するパンデミックを宣言するに至りました。WHOが各国・地域の政府機関から受けている報告によると、4月27日時点で全世界の COVID-19 累積症例数 2,878,196、累積死亡症例数は 198,668 で、単純計算による致死率は 6.90% となる報道されています。またフランスの見かけ上の致死率は 18.51% など、スペイン、イタリア、イギリス、ベルギー、オランダなど、西欧諸国では軒並み 10% を超えています。もちろん各国で COVID-19 に対する診療体制は異なるので、とくに診断を確定するための検査をどのように実施しているかが多様であることから、死亡例数を報告された症例数で単純に除して致死率の評価とするのは不適切であるとしても、以前に想定されていた“致死率 2%” とはかなりの差異となっています。

欧米諸国で感染が急激に進んだのは、周囲の人を大量に感染を拡大させるクラスターを見逃したことによって、症状がない、いわゆる無症候感染者を野放しにしたためと考えられました。彼らが社会の中で動き回ること、いつの間にか感染が爆発的に広がり、それとともに死者が急激に増えていったのです。このCOVID-19が怖いのは、インフルエンザとは異なり、感染してもすぐに症状が出ないことです。感染した人が発症して診断に至るまでにはなんと平均7日もかかります。このために、知らない間に、しかもあっという間に感染が広がってしまうのです。このウイルスの変異はランダムに起こりますが、分析したウイルスがそこにあるのは、その環境の下で選択された結果です。ヒトからヒトへ感染が広がるのは、ヒトにうつりやすい変異が選択された結果です。ウイルスが猛毒化し、SARS のように、感染間もなく感染者を殺すようであれば、ウイルスは感染者と共に消えていきます。

日本医師会は国内感染者の急増に対し、政府の緊急事態宣言に先立ち、4月1日に医療提供体制を維持するために「医療危機的状況宣言」を発表しました。すなわち、国民には自身の健康管理、感染を拡大しないための行動、適切な受診行動等を求めるとともに、政府に対しては、感染が疑われる者に対するPCR検査、既感染者に対する抗体検査が適切に実施できる体制の早急な整備等を要請しています。

その後日本でも急激に感染者数が増加し、4月7日には新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県の7都府県を対象に発令され、4月16日には全国を対象とした緊急事態宣言が発出されるに至り、医療現場でもマスクなどの个人防护具や手指消毒アルコールの供給不足などを生じました。いま、感染症指定医療機関はもちろんのこと、全国各地域の医療現場においては、COVID-19という「見えざる敵」に対して、医療関係者が地域住民の生命を救うべく懸命に闘っているところです。

COVID-19は、新型なので多くのことが不明です。ウイルスの生物学的特徴や感染経路、感染に伴う生体の反応、とくに免疫応答、組織病理、臓器連関による病態形成、適切な予防・診断・治療法、合併症、疫学など、まだまだ不明なところが多くあります。またPCR検査や抗体検査のあり方、検査の予防・診断・重症度判定における意義、既存医薬品の有効性の検証、PPE (个人防护具)、人工呼吸器、人工心肺装置の供給と運用、さらに地域における診療所と病院の連携と受け入れ体制など、喫緊の課題が山積な状態です。

COVID-19 の感染拡大を抑えるには、感染者の特定、隔離が最も有効とされ、かなり長期間に渡って行わないと感染防止効果はありません。COVID-19には2020年5月の時点で標準治療薬が存在していません。そこで国内既承認薬を用いた臨床研究・治験及び国内未承認薬の治験、回復者血漿の投与等で標準薬確立のための取り組みがなされています。

一人から何人に感染が広がるかを示す実効再生産数 (R_t) というものがありますが感染データを用いた計算により算出され1未満で維持することが目安になります。

ノーベル医学・生理学賞を受賞されiPS細胞研究所所長の山中伸弥教授によると「大阪府民である私から見ると、大阪府の R_t が4月21日に1を下まわり、5月1日現在で0.6程度という計算結果は、府民の努力が報われているようで嬉しく思います。この値が続くようであれば、経済活動等を少し緩和出来る可能性を期待します。しかし油断は禁物で、緩めすぎると R_t はあっという間に1を超えたいと思います。京都市も市民の努力で4月16日以降、 R_t の平均値は1未満という結果で努力を維持する必要があります。北海道は、4月11日の段階で2.7という計算結果でしたが、道民の皆様の頑張りで、5月2日には1.12という計算結果です。まだ1を超えていますので、引き続きの頑張りが必要と思われます。新型コロナウイルスに対する対策は微妙な手綱さばきが求められます。緩めすぎると感染者の急増と医療崩壊を招きます。締めすぎると、休業自粛をお願いしている方々の生活が崩壊し、また抗体を持つ人の数がなかなか増えないため、第3波、第4波に対して脆弱になります」と述べられています。

一人から何人に感染が広がるかを示す実効再生産数 (R_t) を1未満で維持することが一つの目標となります。 R_t は、国や自治体の対策方針を決める重要な指標で、そのような科学的議論に基づいた政策決定が今後も必要なのでしょう。

以上